

|                      |              |     |   |  |
|----------------------|--------------|-----|---|--|
| 9-5                  |              | 主題  | 利用者 <sup>とも</sup> と偕に生きる Part II<br>「心が動く介護予防」の取り組み |  |
| 生活の質の向上              |              | 副題  | ～楽しみを 自分で見つけ 始めよう～                                  |  |
| 偕 <sup>とも</sup> に生きる |              |     |   |  |
| 研究期間                 | 12ヶ月         | 事業所 | 養護老人ホーム 偕生園   |  |
| 発表者：笹山 圭太（ささやま けいた）  |              |     | アドバイザー：   |  |
| 共同研究者：川口貴弘・久保幸江      |              |     |   |  |
| 電話                   | 042-541-1236 | メール | s-kubo@doho-gojokai.com                             |  |
| FAX                  | 042-546-3318 | URL | http://doho-gojokai.com/2kaiseien.html              |  |

|                  |   |
|------------------|---|
| 今回発表の事業所やサービスの紹介 | 社会福祉法人同胞互助会を母体とする養護老人ホーム偕生園は、昭和34年3月に定員50名の施設として開設した。平成12年に全面建替えをし、特別養護老人ホーム、在宅サービスセンター、ヘルパーステーション、地域包括支援センターなどが同敷地内にある。現在、定員140名である。 |
|------------------|---|

|  |  |
|--|--|
| <p>《研究前の状況と課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年4月の制度改正で、介護保険サービスが利用できる施設になった。</li> <li>当施設の退所理由の大半が、死亡及び身体機能の低下、要介護状態になっての特別養護老人ホームへの入所である現状を踏まえ、可能な限り当施設で自立した生活を継続して頂くためにも、機能訓練を行う必要があった。</li> <li>そのため、当施設の重点目標を「利用者、職員がやりたいことを大切にす取り組みをなるべく多くし、楽しいことを増やす」こととし、毎日の生活そのものを介護予防とした。</li> <li>しかしながら、比較的自立度の高い利用者は、リハビリそのものに興味がなく、参加には至らなかった。そのため、『自分のため』と思える「心を動かす」活動の提供が課題だった。</li> </ul> | <p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>多彩なメニュー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>利用者参加型の委員会（とっかえる委員会）</li> <li>多目的運動場の整備および健康遊具の設置</li> <li>地域との交流</li> <li>クラブ（16個）・同好会（13個）</li> <li>健口体操（歯と口のための体操）</li> <li>アダプト制度による清掃活動</li> <li>認知症サポーター養成講座（利用者・職員共に受講）</li> <li>リハビリ（リハビリ体操・エルゴメーター・散歩・いきいき健康体操・パタコロなど）</li> </ol> <p>身体を動かすことは勿論、特に利用者が「楽しい、自分のためになる」と心を動かすような、多彩なメニューに挑戦し、職員とともに楽しいことや興味があることを続ける。また、活動を通じて地域社会に役立っていることを実感しながら、生活していただく。そのことによって、日々の生活を重ねていくことが、自然に介護予防になっていくことを期待していく。</p> |
|--|--|

### 《具体的な取り組みの内容》

- 運動器具「パタコロ」によるリハビリの実施
  - ・リハビリ委員会の発足と月一回の開催
  - ・OT、PT 評価による、個々の ADL・好みにあったリハビリの選択
  - ・利用者・職員にむけてアンケートを実施
  - ・他施設のリハビリ活動を見学・体験
  - ・スタンプカードの導入と表彰状及び景品の贈呈
  - ・参加利用者へ日々の努力を称える声かけ
  - ・器具の追加購入と活動場所の変更
  - ・体力測定

### ●地域交流への発展

- ・保育園・幼稚園児との交流
  - ・地域子供会との交流
  - ・小中学生との交流
  - ・近隣寺院の清掃活動
  - ・アダプト制度による公園清掃活動
  - ・盆栽同好会活動から、近所の愛好家宅への訪問
- 事例—

ゲートボール部は、園庭多目的運動場での活動（週4回）の他に、近隣の小学校の校庭を借りて週1回の活動を継続している。活動後は「東京芝生心援団」として芝生の除草作業を行い、校庭芝生化の取り組みに貢献している。

また、この活動を通じて、小学校での展覧会への参加や7月と11月に小学校の5、6学年の生徒との交流会を実施する。他、ゲートボール交流会も予定している。

### 《取り組みの結果と評価》

- 運動器具「パタコロ」によるリハビリの実施
  - ・月1回にリハビリ委員会を開催する事で、問題を提起・解決できている。
  - ・パタコロの参加者は当初10名弱だったが、現在約30名に増加している。スタンプカードを導入したことで、今まで都度の声掛けで参加されていた方に、自発性が生まれ、『心を動かす』事ができたと考える。
- 地域交流への発展
  - ・交流会のプレゼントを自発的に作りたいと申し出た方がいた。
  - ・クラブ活動から地域交流に発展した。
  - ・利用者の方からも笑顔が多く、表情も豊かで心のリハビリに繋がった。
  - ・アダプト制度を利用した公園清掃活動で、地域に役立っている。
  - ・義歯の作成に消極的だった方が、健口教室から義歯作成へと繋がった。

### 《まとめ》

介護予防への取り組みを「身体のリハビリと心のリハビリ」と広い意味で捉え、活動に興味を持っていなかった利用者の意欲を引き出し、興味を持ってもらう「心を動かす」こともリハビリの一環と考え、利用者と職員が『<sup>とも</sup>偕に生きる』を実践していきたい。

### 《参考文献》

パタコロ製造販売元：リハビリエイド有限会社

### 《提案と発信》

当施設では、『利用者・職員がやりたいこと』＝自発性・自主性を大切にしていきたいと考えております。利用者が「施設に入所したから、何かを諦める」のではなく、『**偕生園に入所したから、新しいことが始められた**』と思えるような施設を目指して、利用者・職員と偕に<sup>とも</sup>チャレンジしていきたい。

### 【メモ欄】